

お便りください

このコーナーは、皆さんの意見や地域の問題をお届けしています
広報広聴課 ☎51-0123 内線2823へご連絡ください

市長への 手紙から

原田公園にトイレの増設を

今回は、広見東本町にお住まいの小川さんから、原田公園のトイレの増設についてお手紙をいただきましたので、ご紹介いたします。

「市長への手紙」から

原田公園は、トイレの場所が遊具広場から遠いため、子供を二人以上連れていくととても大変です。しかも、公園内には不審者がいることもあると聞いたことがあります。一人を遊ばせておいても、もう一人をトイレに連れていけるような場所にトイレを設置してほしいと思います。

子供連れとなるとやはり、トイレのことが一番心配です。

「市長からの回答」

ご提言ありがとうございます。原田公園は、原田地区に整備している公園です。昭和五十六年に事業着手し、平成六年までに、市内の公園の中でも遊具を十分に備えた公園として整備を進めてきました。

しかし、駐車場が未整備であったため、利用者や近隣の人た



小川 久美江さん

ちにはご迷惑をおかけしてしまいました。平成十一、十二年の二年間で、南側の市道伝法原田線に面した部分の整備や、公園内歩道の舗装工事を進めています。今回の整備により、井戸水の流れる小川や芝生の大型滑り台、照明灯、駐車場（三十台駐車可能）などができ上がります。

ご提言にありましたトイレの設置の件ですが、以前から遊具広場の近くに幼児用トイレの設置を望む声が多かったため、使用しやすい場所に本年度の工事で設置していきます。

今後は、隣接する西側区域の整備を進めます。また、高台の平地部分には災害時の避難地として利用できる防災機能を持つ公園として、なお一層の充実を図っていきます。

問い合わせ

みどりの課 内線二六六二

浮島民謡「里はうきうき」「浮島節」が誕生



ふじ



ことし五月、浮島地区に二つの民謡が誕生しました。

この地区にはもともと伝統的な民謡や芸能がなかったため、浮島地区まちづくり推進会議では、郷土史編さんとあわせて、生涯学習推進会との共催による夏の春山祭りに備え、この地区にふさわしい民謡をつくることになりました。

民謡の題名は「里はうきうき」と「浮島節」。作詞・作曲は、富士市老人クラブの歌「悠容喜楽節」を手がけた佐野末次さん（作詞）と嶺脇栄太郎さん（作曲）。「浮島節」には、梅華流の梅華美洲さん振りつけによる踊りも加わり、軽快で明るい曲に

仕上がりました。

まちづくり推進会議会長の小野真一さんは「『浮島節』の歌詞は、『里はうきうき』の予備でつくったものでした。しかし、こちらにも曲をつけてみると、こちらもまたすばらしい民謡にでき上がりましたので、二曲とも皆さんに発表することになりました。この地区に初めてできた民謡です。ふるさとの歌として、今後いろいろな場面で愛唱していただけたらうれしいですね。これからみんなで歌って踊って、にぎやかに七月二十二日の春山祭りを迎えたいです」と話してくれました。



▲嶺脇栄太郎さん（一番右）らによる二つの民謡の披露



▲梅華美洲さん（中央）らによる「浮島節」の踊り